

■本多庸一 キリスト教指導者、教育家。伝道・教育に専念するも、<日清戦争>に協力、<日露戦争>では主戦論。

ほんだよういち

・ ・ ・ ・ ・ 1848＝ 陸奥(青森県)弘前で、津軽藩士本多久元の長男に生まれる。

ペリー来航・1853＝ 5歳：

蕃書調所・ ・ 1857＝ 9歳：

桜田門外変・1860＝12歳：

藩校(稽古館)に学び、

薩長同盟・ ・ 1866＝18歳：

明治維新・ ・ 1868＝20歳：

初の日刊新聞1870＝22歳： 藩命で横浜に留学、英語修業のため宣教師のパラー塾に学び、初めてキリスト教に出会う。

廃藩置県・ ・ 1871＝23歳： <廃藩置県>のため一時帰郷したが、

学問のすすめ1872＝24歳： 自費で再び横浜に出、パラーより受洗、日本基督公会に参加して、植村正久・押川方義らを知る。

明治6年政変 1873＝25歳：

佐賀の乱・ ・ 1874＝26歳： \*東北地方伝道を志して弘前に帰り、東奥義塾塾頭に就任して再興、

初の民間工場1875＝27歳： 弘前日本基督公会を創立、

三つの反乱・1876＝28歳： 教派を転じて弘前メソジスト教会とする。

大久保暗殺・1878＝30歳： 東奥義塾塾長になる一方、{共同会}を結成して民権運動に参加し、

明治14年政変1881＝33歳：

新体詩抄・ ・ 1882＝34歳： 青森県議会選挙に当選、

岩倉具視没・1883＝35歳： 上京し、築地の新栄教会で長老(正教師)の按手礼を受ける。

秩父事件・ ・ 1884＝36歳： 青森県会議長をつとめた。

国民之友始・1887＝39歳： 東京英和学校校長兼教授・青山美以教会牧師に就任。

初の対等条約1888＝40歳： アメリカに留学。政界での活動を断念し、伝道・教育に専念する意志を固めて、ドゥルー神学校に入学、

帝国憲法発布1889＝41歳：

帝国議会始・1890＝42歳： 帰国後、東京英和学校校長となり、

大本教・ ・ 1892＝44歳： \*改組改称により、青山学院初代院長となる。

郡司千島探検1893＝45歳：

日清戦争始・1894＝46歳： 日清戦争に際して清韓事件基督教同志会を結成、その委員長となり、また征清軍慰問使として戦地に渡り、戦争に協力。

Bushidou・ ・ 1899＝51歳： 宗教教育を禁止する文部省訓令の公布に遭遇したが、この問題を克服。

教科書疑獄・1902＝54歳：

日露戦争始・1904＝56歳： \*日露戦争で、内村鑑三・柏木義円らが反戦論を唱えたのに対し、「征露論」「征露と伝道」を著わし、主戦論を主張、軍隊慰問のためにYMCAを満州に派遣した。

日露戦争終・1905＝58歳：

メソジスト三派合同に尽力し、

韓国反日暴動1907＝59歳： 日本メソジスト教会が成立すると、初代監督となる。

また、日本キリスト教青年会の結成に参加し、その指導にあたる。

大逆事件判決1911＝63歳： 日本基督教会同盟の成立により、その会長に就任し、

明治天皇没・1912＝64歳： \*内務大臣主催の神仏基の三教会合同の際、代表に選ばれたが、両肺気管支カタルほかの病気で没した。